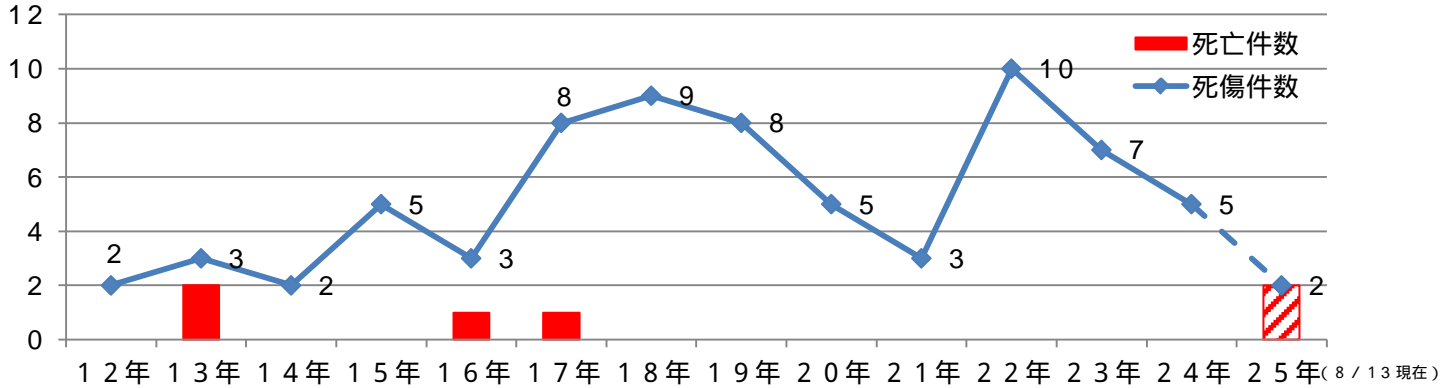


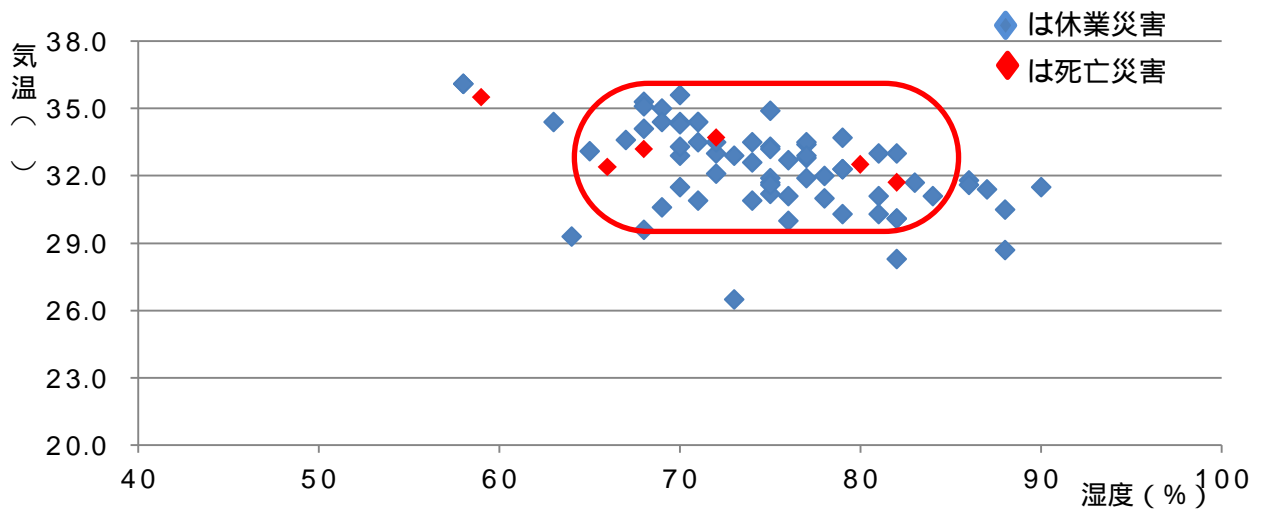
熱中症による死亡災害が相次ぎ発生！

全国的な猛暑が続き、長崎県下でも7、8月は日中の最高気温が35度を超える猛暑日が観測される中、熱中症（疑い含む）による死亡災害が2件発生しました。今後も当分の間、平年より気温が高いとの予報が発表されていることから、十分な対策を講じて下さい。

熱中症による災害発生状況



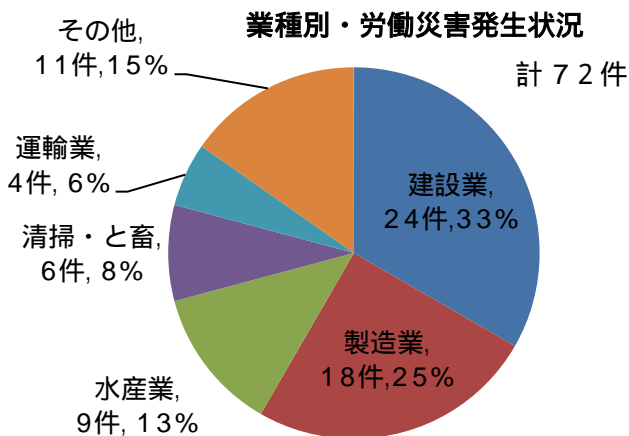
熱中症発生日における最高気温及び湿度



* 気象庁 統計情報より

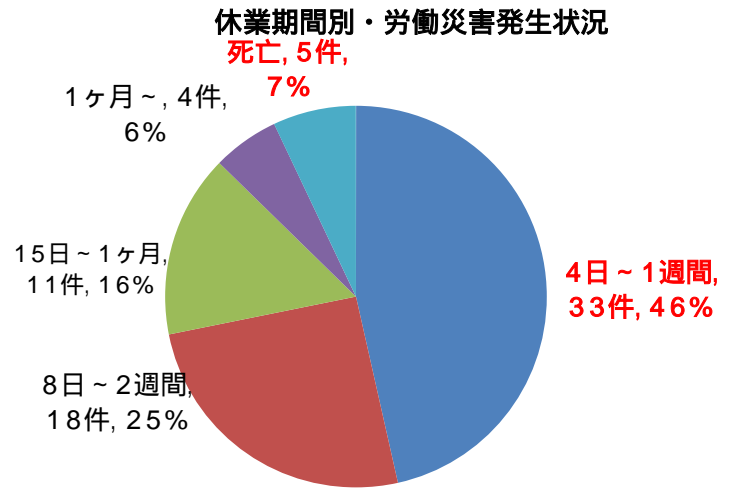
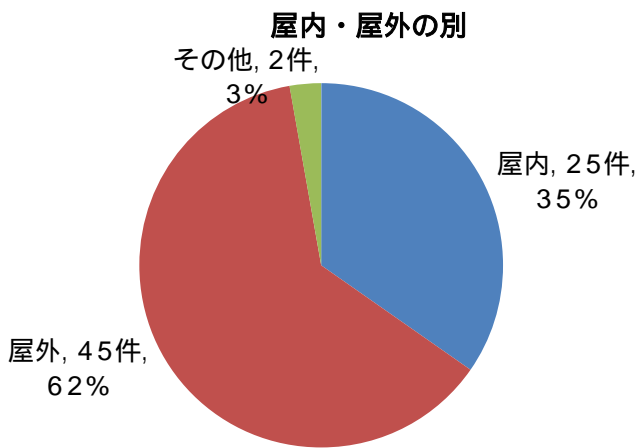
熱中症発症当日の最高気温及び湿度（災害発生場所の最寄りの測候所統計）を集計したところ、最高気温30℃以上で湿度が65%を超える区域に集中しています。

平成25年8月9日に福岡管区气象台が発表した九州北部地方の1ヶ月（8/10～9/9）の気象予報では、平年（1981～2010年データ）より平均気温が高い確率が**60%**となっていますので引き続き、警戒する必要があります。



県内の熱中症による死傷者数72件を業種別に分類すると、建設業が最も多く全体の3割以上を占めています。

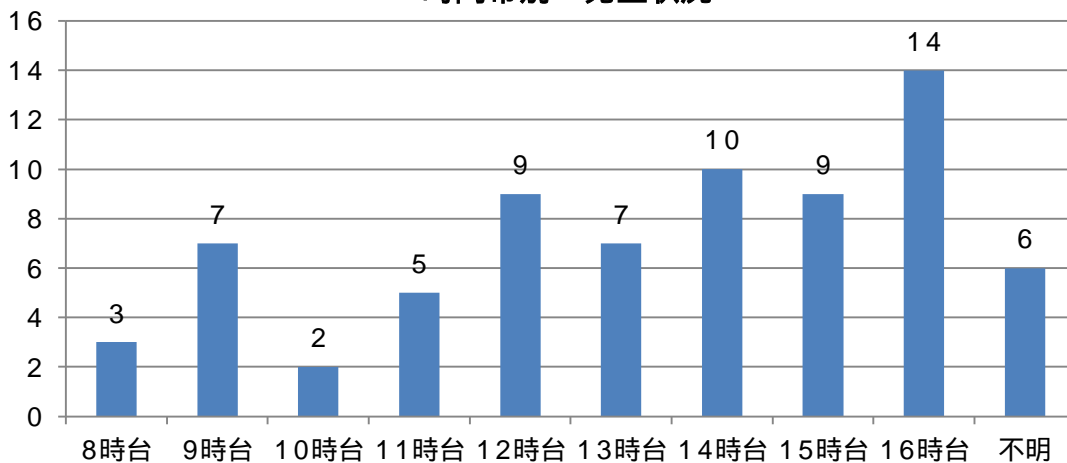
製造業では、造船業が15.5%（11件）と多く発生していることから、全体の4分の1を占めていますが、その他には、水産業、清掃・と畜（産廃業）、運輸業など屋外の業種が目立っています。



屋内・屋外の別をみると、輻射熱（てりかえし）の影響から屋外で熱中症にかかる割合は高いものの、室内においても通風が不十分な作業場所や溶接現場、造船所における船内作業などでも発生しており、屋内・外を問わず発生する可能性があります。

休業期間別でみると、約半数が「1週間以下」です。しかし、死亡災害の割合も高く全体の7%を占めています。

時間帯別・発生状況



発生時間帯別でみると、12時以降から発生する割合が高くなり、全体の約7割を占めています。

県内の近年における熱中症（疑い含む）死亡災害発生状況

番号	発生時期	業種	年代	発生状況
1	25.8	建設業	40代	被災者は建設工事現場で作業していたところ、体調不良を訴え、病院に搬送されたものの、熱中症の疑いにより死亡したものの。
2	25.7	農業	50代	午前中から畑で作業を行っていたところ、午後4時過ぎに気分が悪くなり病院へ搬送されたが、熱中症により翌日死亡したものの。
3	17.9	建設業	50代	建設工事現場で石積み作業中、午後4時頃、被災者が体調不良を訴えたため、しばらく休憩させた後、被災者を自宅へ送ろうとしたものの、車内で意識が消失し、熱中症により死亡したものの。
4	16.7	建設業	40代	建物解体作業中の午後4時過ぎに被災者の様子がおかしかったため、休憩させ、午後5時過ぎに被災者を自宅へ送ろうとしたが、意識を消失し、熱中症により死亡したものの。

（注）当該災害統計は労働者死傷病報告書（休業4日以上）を元に作成しております。なお、平成25年8月13日現在で把握している情報であることにご留意下さい。